

江東区とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設所在地	江東区豊洲5-5-25-1F
施設名	スマイスセレソン豊洲保育園

1 活動のテーマ

〈テーマ〉

「カラフル」～色、個性の探究～

〈テーマの設定理由〉

色彩としての「色」と、個性を表す意味合いでの「色」の両側面から取り扱った。

2 活動スケジュール

①6/20. 25 色水、ウォータードロップ作り
②7/14-28 布絵の具（手形スタンプ）
③8/18. 21. 25. 9/1 プロダンサーとの表現活動（喜び・悲しみ・怒りの動きをダンスにする）
④8/27 透明シートを使った描画
⑤9/4-8 アンブレラアート
⑥10/4 運動会→創作ダンスの披露
⑦11-12月 「いまのきもちはどんないろ？」話し合いからの創作劇作成、わたしの色作成（描画）
⑧11/11 落ち葉の観察
⑨12/14 生活発表会→自分でデザインした服を着たファッションショー・創作劇「いまのきもちはどんないろ？」歌「わたしと小鳥と鈴と」の披露
⑩2/9 アコーディオン奏者・プロダンサーによる創作ダンスの鑑賞会

3 活動のために準備した素材、道具及び環境の構成

水性絵の具・布絵の具・Tシャツ・画用紙・クリアカップ・スプーン・オイルポット・絵筆・食紅（赤・青・黄）・透明シート・プロジェクター・書画カメラ・パソコン・ビニール傘・傘袋・作品掲示、返却用ラック

4 探究活動の実践

〈活動の内容〉

まずは造形活動から進めた。色水遊びや手形スタンプ、描画などでは特に取り組みの過程を大切にした。色彩としての色の性質や特徴について子ども自ら考え、試したり工夫したりする体験をした。その後の表現活動では、子どもたちと「気持ち」をもとに話し合いを重ねた。「喜び・怒り・悲しみ」の感情はどのような時にそうなるか？を聞き出し、その時をイメージしながら身体で表現してみた。そこで得た意見をもとに身体表現や創作劇を進めていった。講師としてプロダンサーを招き、子どもたちから出た身体表現をいくつかの振り付けとして展開させた。運動会では子どもたちが作ったアンブレラアートを施した傘と全員分の好きな色の手形をスタンプしたクラスTシャツを着用し、創作ダンスを披露した。生活発表会ではこれまでの話し合いから出た意見をストーリー仕立てにしたものを披露した。ある程度の台本や流れはあるものの、その場での子どもの素直な言動も1つの姿として捉え、活かした。最後に締めくくりとして、講師による生活発表会で披露した創作劇を題材にした創作ダンスを鑑賞した。

〈活動中のこどもの姿、声、子ども同士や保育者との関わり〉

造形活動では色同士の混ざり合う様子に興味を持ち、数多くの色を混ぜてその変化を楽しむ子もいれば、好みの色を作るために少しずつ絵の具を足して調整をしながら完成を目指す子もいた。すくわくプロジェクトとしてさまざまな造形活動に取り組む中で、次第に子どもたちは自分だけでなく周りの子の作り出す色にも興味を示すようになった。「何色作ったの?」「その色もいいな。」などといったやり取りが生まれたり、単色でない完成した色に「すみれ色」「空色」などと自分たちで名前をつけたりしながら自分とは異なる考えをもつ他者の存在を受け入れるきっかけの場となっていた。表現活動ではさらに踏み込んで、自分そして周りの人たちの違いに触れた。話し合いでは、感情に繋がる身近な出来事を発表した。「誕生日プレゼントをもらった時」「みんなで育てたナスが収穫できた時」「友達に自分の作ったものを壊された時」「ケンカした時」など、多くの子が場面を言語化できた。こんなときどうする?と身近な事例をもとに進めていった。給食のカレーライスを嬉しいと思う子や苦手だと思う子、雨が降ったことを傘させるからラッキーだと思う子や散歩に行けないのを残念がる子など、多様な価値観に触れた。



5 振り返り

〈振り返りによって得た先生の気づき〉

今まで絵の具を使う活動は年に1~2回程度であったが、今回積極的に用いたことで子どもの造形表現のさらなる広がりを感じた。また作品としての完成度は重視せず、その過程に着目し、子どもの姿をよく見て理解を深めることで子どもたちとの関係性の構築に繋がった。その後の表現活動を含め、子どもたちと話し合ったりやり取りをする機会が多くあった。毎回の子も安心して自分の意見が言える場であることを大切にしたい。子どもとの話し合いの場では特に中立であることを意識し、どんな意見もまずは受け入れるようにした。クラス内にはこれまで指示待ちの子が多かったが、本プロジェクトでの経験を通して少しずつ自分で選択することに慣れ、自らの意思で行動するようになり変化が見られた点が印象的であった。